

# 議員団 ニュース

日本共産党平塚市議会議員団  
電話 0463-23-1111 (内線 2375)  
平塚市浅間町9-1 平塚市議会控室

日本共産党平塚市議会議員団  
団長 渡辺 敏光  
電話・fax 31-6431  
[w-toshi@agate.plala.or.jp](mailto:w-toshi@agate.plala.or.jp)  
松本 敏子  
電話・fax 59-4607  
[mail@matsumoto-toshiko.jp](mailto:mail@matsumoto-toshiko.jp)

日本共産党議員団の法律相談  
次回は1月9日です。  
午後1時 (要予約)

No.1058 2010年1月10日発行

## 本年もよろしく お願いいたします



昨年暮れには、日本共産党平塚市委員会と有志による「平塚年越し派遣村」を開設し、大みそかと元旦の2日間炊き出しと相談会を行いました。2日間で計66人の方が訪れ、食事をとり、これからのこと話を話し合いました。

今回の「年越し派遣村」開設にあたりましては、多くの方々からご支援いただき本当にありがとうございました。心からお礼申し上げます。

役所が開いた4日からは、相談に来られた方々の生活、健康、住まいなどの問題解決に取り組んでいます。政権交代で明けた今年こそ、大企業にしっかりと雇用責任を果たさせ、労働者派遣法の抜本改正など人間らしく働く条件を広げていきましょう。「雇用の破壊」が即「生活の破壊」となる悪循環をストップさせ、安心して暮らせる社会を築くために、今年も皆さんと力を合わせて頑張ります。



日本共産党平塚市議会議員団長 渡辺 敏光議員 (中央)	日本共産党平塚市議会議員 松本 敏子議員 (右)	日本共産党平塚市議会議員 高山 和義 (左)
同市議会議員 くらし・福祉相談室長	日本共産党平塚市委員会 くらし・福祉相談室長	日本共産党平塚市議会議員 団長 渡辺 敏光 電話・fax 31-6431 <a href="mailto:w-toshi@agate.plala.or.jp">w-toshi@agate.plala.or.jp</a>

電話・ファックス・メールで皆さんからのご意見・ご要望をお寄せください。

職を失い、収入がなく、食事に事欠く方からの相談で、共通しているのは、「これ以上、知人に頼れない」、「相談できる人がいない」ということです。これら相談を受けながら、自分自身の学生時代の頃を思いだしました。バイトをしなければ食べていけない立場でありながら、学生運動に専念しなければならないなりました。仲間たちの「援助するから」という声もありましたが、そうは甘えられるものではありません。絶えず空腹で活動をしなければならないこの辛さは、経験したものでなければわからぬと思います。投げ出したくなることもあります。

これら相談を受けながら、自分自身の学生時代の頃を思いだしました。バイトをしなければ食べていけない立場でありながら、学生運動に専念しなければならないなりました。仲間たちの「援助するから」という声もありましたが、そうは甘えられるものではありません。絶えず空腹で活動をしなければならないこの辛さは、経験したものでなければわからぬと思います。投げ出したくなることもあります。

一定の年齢に達して、職を失うこと、学生運動とは厳しさが違う、と言われるかと思います。もちろんまったく違います。しかしどんな年齢になつても、どんな境遇になつても、「仲間(親友)」と「夢(展望)」は、生きる力の源泉であるはずです。

ならば、「頼れる人がいない」という方の相談にたいしては、「仲間」として接し、展望をもつ努力を一緒にできればと思います。

心にゆとりをもち、やさしくなろう!

小泉元首相の構造改革政治の時、「自己責任」ということがよく言われました。

この政治が間違っていたことはすでに明らかです。しかし一人一人の意識の中には、一定程度定着しています。しかし、どんな困難なかにあっても、心にブレーキがかかり、踏みとどまることができたのは、一緒に頑張っている仲間たちを裏切ることはできない、ということ。そして仲間と絶えず確認しあつてある「夢」と、その実現への「展望」をもつていたからだと今、感じています。

この政治が間違っていたことはすでに明らかです。しかし一人一人の意識の中には、一定程度定着しているのでは、と思うことがあります。それでも、心にブレーキがかかり、踏みとどまることができたのは、一緒に頑張っている仲間たちを裏切ることはできない、ということ。そして仲間と絶えず確認しあつてある「夢」と、その実現への「展望」をもつていたからだと今、感じています。

私の回りでも、たとえば生活保護を受ける方々にたいして、社会的背景を抜きにし、「自己責任」という面からだけ、認識することが多いように思われます。もちろん今、だれもがゆとりがなく、追いつめられながら生活している方が多くいます。だからこそ、心にゆとりをもつことが大事ではないでしょうか。それは私自身にも言い聞かせなれば、だれにたいしてもやさしくなれなくなってしまいます。いよいよ7月には参議院選挙、そして15カ月後にはいつせい地方選挙。市民のみなさんが望む「変化」を確かなものにするためにも、ぜひお力を貸し下さい。期待に応えるため、精一杯頑張ります。

2010年、本年もどうぞよろしくお願い致します。

## 心にゆとりをもち、仲間と一緒に夢に向かって前進しよう!

平塚市議会議員  
渡辺 敏光



## 昔はみんな苦しかった だからみんな「お互い様!」だった

平塚市議会議員  
松本 敏子



最近、年のせいか時々昔のことを考えることがあります。私がまだ小さかった昭和30年代、どこの家も貧乏でした。我が家もご多分にもれず貧しく、農家ではなかつたために、毎日の食事に白い米を使うのはもつたいないと、当時の池田総理大臣の失言とされる「貧乏人は麦飯を」を逆手にとつて、当時、栄養不足から脚気になる人が多かったこともあり「体いいから」と麦を加えた御飯を食べるものでした。

当時、私を含め小中学生が3人。一度に学級費や給食費を請求される母はたまりません。当日の朝に出した子に「なぜ、昨日のうちに言わなかいか！」と叱りながら、近所まで借りに行くこともし

ばしばでした。あの当時は、まだ戦争からの復興期。誰もが必死に生きる道を摸索し、誰もが苦しいから恥も外聞もなかつた。だから、「お互い様」という思いの中から、生きる元気が出ていたのかもしれません。働くところも住むところもない人がいれば、「うちの工場（こうば）で働くか？飯くらい食わせるよ。」と助けられ、そこで身に付けて技術を見込まれて、新しい店を出してもらうなんて話もよく聞いたものでした。

家を出ても働ける仕事がないから、家族みんな一つ屋根の下で、喧嘩しながらでも助け合つて生きてきた。それが、なぜ今、「うちも苦しいけど、お前一人くらいならなんとかなるさ。家で働いてみるか？」と言えない状況なのだろうか・・。今、なかなか人を信じることが難しくなってきたこともあります。しかし、なによりも将来への不安です。展望が見えない今の社会、「自分たち家族が生きていく

のがやつと」という気持ちから解放されることはありません。税金はどんどん増え、年金や健康保険、介護保険料は次々値上げされ、若者は家を出たが自分の生活がやつと。親は、国民年金を頑張つて払つてきたけどそれでは生きていけない。

親が弱音をはくと、養う力がない子どもと親の間に溝が生まれてしまうのです。大企業の税金を減らしてその穴埋めを国民に負担させるから、若者が結婚して子供を育てるとな派遣切りなどが横行するから、いう当たり前の生活が出来ず、親にまで冷たくあたつてしまふ。家族の助け合いや温かい家庭を築きにくくしたのは、政治が国民に向けていないからです。もつと、生きている人々に光を当てた政治にしないと！

今こそ、大企業優遇政治の犠牲になつたのは「お互い様」の精神で、国民のための政治に切り替え

## 「花菜ガーデン」開園に先駆け 寺田縄のいちご農家で「摘み取り」始まる



この3月に県と市の協調事業である、花と緑のふれあい拠点「花菜ガーデン」が寺田縄に開園します。

周辺のいちご農家では、それに先駆け1月3日からいちごの摘み取り体験を開始しました。

各ハウスの中では、「紅ほっぺ」「とちおとめ」「さちのか」の品種が真っ赤な実をたわわに付けています。

初日の3日、地元に住む松本敏子議員は今年から「摘み取り体験」を行ういちご農家6軒を訪ね、状況を伺ってきました。

インターネットで知ったという人や、「臨月だけれど近くだから行けるね」といって出かけてきたという人など、どの農園にもお客様が来始めていました。

昨年心配した「ミツバチ」も今年は順調に入荷しているということで、温度管理もしっかりとされていました。どの家も親の代から出荷しているベテラン農家です。

そばには、花菜ガーデンのシンボル「カレルチャペックの家」がよく見え、いよいよ開園間近ということを感じます。